

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(H29~H30年度:計画作成主体:花巻市農業推進協議会)(岩手県)

取組の概要

対象品目 : ぶどう
 (産地面積3.5ha)
 主な取組主体 : 農業者4経営体
 成果目標 : 経営コスト10%以上の削減
 基準 (H28年度) 368,930円/10a
 目標 (R2年度) 320,617円/10a
 導入施設等 : 生産支援事業 (ぶどう棚等資材の購入)



岩手県
花巻市
大迫地区

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

大迫地区の農業は、水稻を中心として園芸作物(果樹、野菜、花き)、酪農、肉用牛、雑穀、林業等を取り入れた複合経営となっている。販売農家数が年々減少傾向にあり、地域農業を維持・継続していくためには大変厳しい状況にあり、収益性の高い農畜産物の推奨や後継者の育成、新規就農者の確保などが課題である。

特に昭和26年頃から本格的に作付拡大され、県内の一大産地となっている果樹(生食用ぶどう、醸造用ぶどう)の新植や新技術の導入等による低コスト化の取組により、ぶどう産地として所得向上を目指す。



【産地の体質強化に向けた方策】

担い手がぶどう栽培をするために必要なぶどう棚等の導入支援

産地体制

農業者4経営体

ぶどう棚の整備
 ぶどう栽培管理新技術導入によるコストの減

需要に応じた供給



品位・単価等の共有

普及センター等

栽培農家

ぶどう

転換

稲作農家等

・選果基準及び栽培マニュアル作成
 ・定期的な栽培技術講習会の開催

需要に応じた供給

ぶどう棚整備

指導・助言

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・選果基準及び栽培マニュアル作成
- ・定期的な栽培技術講習会の開催
- ・市単独事業により、果樹苗木の購入助成

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①水稻から生食用ぶどうへの作付転換の取組の推進(0ha→0.25ha)
- ②ぶどう廃園地や耕作放棄地の園地整備による作付拡大の取組の推進(0ha→3.35ha)
- ③生食用ぶどうの新短梢栽培技術の導入や醸造用ぶどうの耐病性品種の導入による露地栽培への移行の取組により作業時間の短縮、農薬使用量が低減され生産コストが削減された。

【事業実施による間接効果】

作業の効率化により品質向上の取組が進み、地域の生産単価が向上(246円/kg→286円/kg)



経営コストが
43%削減
(達成率329%)

「目標年の実績は価格補正後の実績」

